

## 期待しかない!

令和5年5月26日  
第6号

運動会スローガン

### セイナンプワーで一生懸命がんばる運動会



子ども的一生懸命な姿は、なぜあんなに感動を誘うのでしょうか。まだ予行練習にもかかわらず、そんな一生懸命な姿に心打たれ、のどに熱いものがこみ上げ、視界がぼやけてくるのを感じました。

いよいよ運動会を明日に控えました。「創立百五十年目の」「コロナ明けの」等、いろいろな修飾詞がつかれますが、そんなことは関係なく、誰にとってもその学年のたった一回の運動会です。そこに我々職員はこだわります。だから、職員同士の衝突もありますし、ここぞという時の子どもたちへの厳しい指導もあります。どんなに苦労しても、落ち込んでも、うまくいかなくても、子ども的一生懸命な姿や成長した姿を見ればそんなモヤモヤは一瞬で吹き飛びます。こと子どもに関しまして、教師いや大人は単純なのです。保護者の皆さまも共感してくださると思います。さて、二十四日(水)の予行練習では、開会式後の応援↓



合戦で、赤団、白団それぞれの応援団の凛々さに心を驚つかみにされました。まず、それぞれの団長が凛々しい。赤団団長高山 歩未さん、白団団長 緒方 明澄さんの二人の声、所作、表情、どれをとっても素晴らしい。そんな団長たちですから、団員の一人一人がとても良い表情です。それぞれの団の児童たちは、じっと静かに見守っていました。いや、見守るのではなく、見とれていたに違いありません。その後の他学年も、本当に一生懸命でした。

さらにその日の六校時は、六年生の団体演技練習も見に行きました。子どもたちは、強い日差しにうたれ、砂埃をかぶり、汗まみれの体育服に盛大についた砂や泥をはらうこともなく、真っ黒になって練習に取り組んでいました。しかし、完成はまだ遠い状況でした。学年の先生方からの、厳しくも熱い声掛けがグラウンドに響く中、何度も何度も通し練習にトライします。いつしか、四年生がオランダから応援していました。低学年の児童も下校しながら見えています。一生懸命な姿を見せる、見られる最上級生、そして上級生の一生懸命な姿を見つめる下級生。子どもたちの成長の瞬間です。

最後のトライで、できなかったことができました。四年生から、ワッと歓声と拍手が起きました。

明日の運動会、期待しかありません。